

東方COC  
【月面の夢】



### 最初に（前書きのような何か）

今回もリプレイとして発行させていただきまして、東方C.O.Cとは東方の世界観でC.O.Cをやりたいという思いからユウとその周りの人が一丸となって作り上げた追加サブリです。

結構な回数のアップデートをかさねようやく今の形まで持ち込むことが出来ました。特色としましては通常の探索者より頑丈だったり、能力が良かったりするので少しだけ生存するにあたって有利になっています。

あらがいがいようなない理不尽は変わらず存在していますが、あらがえる範囲が広がっているので多少の無茶が出来たりはします。死ぬときは死にます。それはクトゥルフに置いてはしかたない部分です。 ※ここまでわかさぎ。

では恒例と化した前書きのような何かが終わったところで、リプレイの内容とかに移っていきます。

今回はオンラインイベントということで、コピー本でレビュー版を作ろうと思いい、今回のような形式になりました。多分いつものねこのしっぽさんに頼むより価格を抑えることができるでしょう。（願望）いつものように印刷したものとどっちがいいのでしょうか？お試し版ってことでここはひとつお願いします。

なお、完成版は夏コミにて頒布を行います。原稿作業自体は完了していますから、夏コミは少し楽しめるかもしれないですね。

では、ここからは本編に入っていきますかと思いましたが、途中で切れてしましますが、そこまでゆっくり楽しんでいってください。

東方C.C.C  
～月面の夢～



## ケース月面の夢

トレイラー

生命の存在しない月の静かの海。そこには何もなかった筈だった。

そして月の面々もわざわざそこを調査しようとは思わなかった。

けれど、そんな日々は終わりを告げた。

静かの海から奇妙なサインが継続的に発されるようになったのだ。

月は原因の調査に玉兎小隊を数回派遣したが誰一人として戻らなかった。

原因となる何かを確かめ、玉兎小隊の安否を確認するためにあなたは静かの海へ向かうのだった。

PL紹介とPC紹介後GM

PC1: 蓬萊山輝夜／哀架さん

## 能力

種族: 蓬萊人 個別: かぐや姫 性別: 女

HP: 14 MP: 14

STR: 09 CON: 18 DEX: 08 INT: 18

SIZ: 10 APP: 12 POW: 14 EDU: 16

アイディア: 90 幸運: 70 知識: 80 SAN: 70

最大SAN: 70 DB: 無し

※蓬萊人: HP減少による気絶が発生せず、復活可能

かぐや姫 男性に対しての説得、言いくるめ

を99として扱う、ノーマルシヨ

ットの威力に+2する

## 技能

Nショット: 80 弾幕: 85 応急手当: 40

回避: 51 隠れる: 80 聞き耳: 75

忍び歩き: 80 信用: 75 飛行: 75

追跡: 60 図書館: 75 目鼻: 80 歴史: 70

## 所持品

火ネズミの皮衣、蓬萊の玉の串、蓬萊の玉の枝

月餅 永遠亭製万能薬 永遠亭製治療キット

## ハンドアウト

月の生活は快適だ。それこそ、何かをせずとも全てが満たされる。

だからこそ退屈でもあった。

きっかけは些細だった。たまたま訓練をエスケー

プした玉兎が迷い込んだのだ。話を聞けばその玉兎

は静かの海への調査に派遣されるらしい。

見送った結果、その玉兎は帰らなかつた。そんな

事は割とどうでも良いが、静かの海の異変は気になつた。

暇つぶしも兼ねて欠員の出た、調査隊に(無理やり)

参加するのだった。

## PL紹介

リプレイに初めて登場するPLで私の卓へ初参加となる方です。話してみると考え方が非常に近かつたので、前々から「卓に招待しますね」みたいな話をよくしていたのですが、それがようやく果たさせたのでGMは個人的にうれしかったですね。

キャラとしてはリプレイシリーズに初登場となる蓬萊山輝夜で、その最大の特徴は復活を使用可能なところ。復活は死亡時にSANを4D6点減らし、死を回避することができます。

PC② 鈴仙・優曇華院・イナバノ 西尾さん  
能力

種族：妖獣 個別：玉兎(工兵) 性別：女

HP：17 MP：12

STR：20 CON：18 DEX：22 INT：16

SIZ：15 APP：16 POW：12 EDU：16

アイディア：80 幸運：60 知識：80 SAN：60

最大SAN：80 DB：1D6

※妖獣 STR、CON、DEXを4D6に変更する、最大SANは80に変更する

玉兔（工兵）任意の戦闘技能もしくは機械修理を40に変更する

## 技能

槍 80 特殊火器 70 医学 65 回避 64

機械修理 70 聞き耳 50 制作（簡易武器）…70

制作（バリゲート）…70 目鼻 50

薬学 61 屈する 51

## 所持品

薬ケース（永遠亭製傷薬2、トランクライザー…1）

修理ツール5、竹槍、松明、火口箱、工具箱

ハンドアウト

静かの海の異変。何かがあつてそこに突入すると帰つて来れないという話が現場ではまことしやかに囁かれていた。

月の上層部は調査に綿月依姫の派遣を決定した。

それに伴いエリート玉兔の鈴仙も共に派遣される事となった。自分には関係ないとタカを括っていた為涙目になった。

派遣に辺り受領した武装がライフルじゃなくて竹槍なのは何の嫌がらせだろうか？しかも、自分以外は全て重役。一体どうしろと？

## PL紹介

古城卓の最終巻より久しぶりの登場になる亜尾さんです。まあ、毎回表紙、裏表紙を書いてもらっている、ある意味では皆勤の人でもあります。

今回はオリジナルではなく、鈴仙を使用しています。エリートを自負していますがダイス目が振るわず……。エリート〇の称号が付いてしまいましたね。

武器に竹槍を持っていますが、高耐久に加え打撃、貫通複合属性であり、非常に強力な武器でした。技能にも屈するというよくわからない技能があ

り、ネタに尽きないビルドでした。なお、一話以降は主人公となります。

### PC3: 綿月依姫／ウチドンさん

#### 能力

種族 月人 個別 依姫 性別 女

HP: 17 MP: 16

STR: 17 CON: 18 DEX: 18 INT: 15

SIZE: 16 APP: 12 POW: 16 EDU: 19

アイデア: 75 幸運 80 知識 95 SAN: 80

最大SAN: 99 DB: 1D6

※月人セツション開始時任意の技能に+10しても

よい。SANを10減少する。

依姫 MPとSANを5点消費する。その場合次に

使用する技能値に+10する。三回まで。

#### 技能

剣技 80 指揮 65 回避 77 隠れる 45

聞き耳 85 忍び歩き 50 信用 60

精神分析 60 目星 85 費す 68

#### 所持品

祇園様の刀、水筒、カンテラ、ポーチ

戦術ノート、ムーンサルサ、豊姫の写真

#### ハンドアウト

その刃は月の秩序と愛すべき家族の為に。その日も鍛錬と玉兎の訓練に余念が無かった。

少しだけ違ったのは、普段は別所で執務に当たらせている副官が鍛錬場にやってきたのだ。

その手には一枚の命令書だった。内容は静かの海の調査を命ずるとの事だった。噂位は聞いていた依姫は直ぐに部隊の編成を始め出撃しようとした。

そこに強引に参加した輝夜、師である永琳、さらに置いていこうとしたギンガナムまで加わっていた。依姫は零す。

——どうしてこうなった——

## PL紹介

短編集より久しぶりの登場となるPLです。前回  
は小悪魔を使用していましたが、今回は月の最大戦  
力の一人である、綿月依姫を使用しています。この  
キャラは実装を行ったばかりのキャラで、試したい  
など思っていた記憶があります。

キャラの特色としてはSANを削ることで技能値  
をブーストすることができるようになっていきます。  
あまりブーストし過ぎると、キャンペーンでは厳し  
いですが、ちよつと足りないを覆せる可能性がある  
のは大きいですね。

立ち位置については、鈴仙ほどではないにしても  
苦勞人枠になります。そもそも比較対象が悪すぎる  
だけで、今回のメンツでは間違いない苦勞人となっ  
ています。さて、依姫さまの胃は無事に終われるの  
でしょうか？

## PC4 八意永琳／島鳥さん

## 能力

種族：蓬莱人 個別：月の頭脳 性別：女

HP：16 MP：14

STR：13 CON：16 DEX：16 INT：18

SIZE：15 APP：18 POW：14 EDU：24

アイディア：90 幸運：70 知識：99 SAN：70

最大SAN：70 DB：1D4

※月の頭脳：医学薬学の初期値を60に変更する。

## 技能

弓：80 Nショット：80 弾幕：65

言いくるめ：80 医学：90 回避：96 聞き耳：90

心理学：80 精神分析：92 飛行：90

目黒：90 薬学：90

## 所持品

弓、矢筒、簡易手当セット、月餅、頭痛薬、注射器



## ハンドアウト

輝夜に玉兔が接触したのは知っていたし、退屈している姫なら興味を持つことも容易に想像できた。そして、案の定だった。輝夜は調査隊に自分をねじ込んだのだ。多分、その容姿でお願いしたのだから。

溜め息が一つ零れた。調査隊の隊長が依姫である事まで調べたあなたは輝夜の護衛と依姫がどれだけ成長したかを見届ける為に調査隊に参加するのだった。

## PL紹介

紅楼夢などで頒布した、短編集□で初登場をしたPLで、今回で二回目の登場となります。傾向的には深く、狭くが振りのスタイルであり、今回の卓でも存分にその傾向を發揮してくれています。

使用キャラはリプレイシリーズには初登場となる八意永琳。そのEDUは上限をぶち抜き驚異の24で全キャラ中最高の数値になっています。その有り

余る技能値ゆえにどのような運用もできる万能キャラでもあります。弓を初期取得していますが、蓬莱の薬を初期取得してもよかったですかね。

現場責任者ということで今回の探索には同行します。大きな見せ場こそなかったけれど高技能値ゆえの安定感は今回の参加者の中でも随一でした。

## PC5: ギム・キンガナム / sionさん

### 能力

種族 神 個別 軍神 性別 男

HP: 15 MP: 18

STR: 17 CON: 13 DEX: 05 INT: 14

SIZE: 18 APP: 10 POW: 18 EDU: 17

アイディア: 70 幸運 90 知識 85 SAN: 90

最大SAN: 99 DB: 1D6

※神 任意のダイス目の結果から、15する。

軍神 相手の装甲を無視し与ダメージに+3する。

## 技能

劍技 80 こぶし 80 指揮 80 特殊火器 41

応急手当 60 回避 70 隠す 80

聞き耳 60 目星 60 飛行 60

## 所持品

玉兎刀、シャイニングフィンガー、甲冑（ターンX）

## スペルカード

名称 わが世の春が来た

消費MP：9 消費SAN：0

内容 居合状態時使用、ラウンド開始時に居合効果で

切りかかる。

## ハンドアウト

戦いの臭いを感じ取り月に降臨した御大将は、玉兎を率い演習を繰り返していた。

その日も玉兎達が筋肉溢れる熱い演習を行っているのを監督していた。

依姫の副官のアンジエロが彼女に何かを渡しているのを横目に捉えた。あなたはそれで全てを理解した。戦いの臭いだと。

担当を締め上げ、自分を調査隊に加えると意気揚々と繰り出すのだった。

## PL紹介

恒例のPLとなりつつあるsionnyさんです。

いつもどおりyもついていきます。え？名前にはyはつかない？気にするな！

使用するキャラは今回のリプレイで一番の色物枠のギム・ギンガナム。月の御大将です。元ネタはまあ言うまでもないでしょ。所持品もそれっぽいですしね。

使っていた本人がもう使いたくないというほどのネタキャラでした。しかし、毎度毎度自由なキャラを使ってくることに定評がある人だと思えます。戦場に偏りつつも、最低限のサポートもできる良キャラでした。DEXが全く息してないけど。

## GM紹介 ユウ

毎度毎度変わらないGMです。機会があればほかの人がGMやった卓とかもリプレイ化してみたいなとは思っています。

今回はIF世界をやるうということ卓を立てました。その際にどこでIFを使用かと考えた時、選択されたのが月でした。鈴仙や永琳、輝夜が月の面々と一緒に行動している光景は新鮮でした。なお、鈴仙は軍用のライフルを持っていない謎仕様。それでも竹槍の頭のおかしさが際立つ卓となりました。実際竹槍威力も刀と同等で耐久がキャラクター3人分と非常に高性能。下手な武器よりずっと強く困る。

なお今回のエネミー仕様はゲーム版基準であり、俗称無敵モードでした。割とシビアだったようなので次回以降は無敵モードが解除され映画の2以降の仕様に変更になります。

## アイサツ

GM 個別のオープニングは行わず、HOで導入に替えさせてはいただきます。また、PCの並び順に一言アイサツなどどうぞ。輝夜IIサン、お願いします。輝夜はーい。

輝夜 こんばんは蓬萊山輝夜よ。毎日毎日退屈よねえ、一応みんなの前ではイイコでいたけどそれも飽きちゃうねそんなとき月面調査だなんて噂を聞いたの。めったに表の月へは行けないのだし、暇つぶしにはなるでしょう♪さあ何が待っているのかしらねえ。

輝夜(以上)。

GM 続きまして鈴仙IIサン、即興でいける？

鈴仙 いきませう！

GM OKです。

鈴仙 私は鈴仙II優曇華院IIイナバ……月のエリートよ。

そう、でなければこんな月の要人ばかりの調査隊に任命されるはずがない……。ええ、そう、そうよ、

なによこの召集令状……？それに武装を無くしたの  
は私が悪いけど、なんで代わりに支給されたのが竹  
槍？（私が）死ぬの？⑨なの？こんな調査なんかに  
絶対屈したりしないんだからね……！！

G.M. それでは、次よっちゃんどうぞ。

依姫 うむ。

依姫 ……はあ。……ん？自己紹介しろ？仕方ないな  
……。 (ひき) 月の平和と未来のために日々精進して

いる綿月姉妹の妹、依姫だ。ん？姫らしくないだ  
と？放っておいてくれ。そういうのは姉上の方が合  
っている。今回、静かの海の探索指示を受けた。玉  
兔たちも被害にあっているからな、編成リストを組  
もうとしていたのだが……輝夜様、XX様、……あ  
とアイツが強引に割り込んできた。このメンバーで  
行くことにいろいろな方向で不安しかないが、鈴仙  
にも協力してもらおう。この中では唯一の忠誠心の高  
い部下だからな。……では行くか。

G.M. では八意XX様どうぞ。

永琳 へいっ。

永琳 月の天才、八意XX。あ、発音上、永琳でいい  
わよ。輝夜のせいで厄介ことに参加させられた。後  
で【検閲されました】でもしてやろうかしら。で  
も、依姫達の成長が見られるから、後ろから助ける  
といった形でいきましようか。でもねー、やっぱり  
ねー、めんどくさ。適当にやりましょ。(以上)

G.M. トリは今回の色物ギンガナムさん。お願いしま  
す。

ギンガナム…小生の名はギム・ギンガナムである！  
名は伏せるが小生はとある神の分霊であり、荒御霊  
と呼ばれる気性の男だ。懐かしき鉄火場の臭いを嗅  
ぎ付け、小生は依姫を航海の導とし月に来た！しば  
らくは腑抜けた兵士どもを鍛えていたが、ようやく  
戦いがやって来たようだ。ふははははは、わが世の  
春が来たあー！ああ、小生は戦以外に戦場医術ぐら  
いしか心得が無いので、他は任せるぞ。

G.M. はい。以上のメンツでお送りします。

依姫 変なのがいるなあ……。

G.M. よつちゃんとうどんちゃんの胃は持つのか？  
人の戦いはこれからだ。

依姫 もう打ち切るのかな？

鈴仙 ヤバイ人しかいないなあ……。

輝夜 わたしはふつうだよ。

永琳 胃薬なら用意できますよ。(1)(2)

G.M. さて、では個別導入はタダシイしていきなりO

P行きます。

依姫 キンクリー。

## オープニング

### 場所 月面静かの海ベースキャンプ

G.M. 月の静かの海にあなた達はやってきます。何もなかった地に奇妙な入り口が存在しています。月と同等かそれ以上の技術で製造されている事が外見から見て取れます。近くにはベースキャンプが設置され、後方支援の玉兎達が忙しそうに動き回っています。さて、こんな状況からRPの開始をどうぞ。

永琳 「はあ、めんどくわ」(3)

永琳 「状況は？」一匹の玉兎に声をかける。

下つ端玉兎 「や八意XX様！？今責任者を呼んでま  
いります」

G.M. 下つ端玉兎は慌ててテントに消えていきます。

輝夜 「へえく此処がキャンプ。都と違って何も無い  
所ねえ」

ギンガナム 「戦だあ！ 敵になる者の気配を感じる  
ぞお！ ばーん！

鈴仙 「いひ、いひひ……な、なんでこんなことに……  
：姫様や師匠やら御大将までいるなんて聞いてない  
い……」(即墮ち)

永琳 「姫様？ここへ何しに来たか、わかっています  
よね？念のため」

輝夜 「それは分かっているわよ。静かの海の調査で  
しよう？」(むう)

永琳 「わかっているなら、結構です」

依姫 「……はあ。(面倒な手続きは省けるとはい  
え、これはな……)」

G.M. テントから眼鏡をかけて髪を七三分けにしたス  
ーツ姿の玉兔が出てきます。

鈴仙「竹槍をヤバイ目で磨きながら」「ハイ……」っ  
てなっています。

永琳「はい、そこ。しゃきっとする」

輝夜「永琳ったら心配性なんだから。あら、その  
玉さん大丈夫？」

鈴仙「フム」復活。

玉兔「ドーモ、輝夜様、依姫様、八意XX様。ご足  
労頂きありがとうございます」

依姫「玉兔たちに被害が出ているんだ。放っておく  
わけにもいかないだろう。」

輝夜「そんなに畏まらなくていいわよ。それで現状  
どういう様子？」

玉兔「実際私たちには既に手に余っています。下に  
送れば誰一人戻らない」

依姫「あなたの立場上、畏まらないわけにはいか  
ないと思いますが……」

鈴仙「静かの海に……？侵略者ということでしょう  
か？」

玉兔「通信から下は宇宙船なのではないかと推測さ  
れています」

輝夜「へえ、宇宙船！目を輝かせる。」

永琳「宇宙船ねー。根拠は？」

玉兔「根拠はその通信をしていたものが音信不通で  
すのでなんとも」

依姫「実際に見てくるしかない……ということ  
か。」

永琳「なるほどねー。繋がる見込みなしね」

G.M. 玉兔は永琳の言葉にうなずきます。

鈴仙「それでこのエリアトである私に要人警護の  
声がかかったのね！……え？つていうかなんで姫様た  
ちそんな危ないところに行かせるの？（震え声）」

ギンガナム「くくく、宇宙船か。これが一隻だけと  
いうならば、此度の船は斥候かもしれんな」

依姫「（出た。面倒な奴が……）」

輝夜「……どなた？」

ギンガナム…「小生はギム・ギンガナム！ ただの軍神の分霊である」

依姫 「……ほら。」今回の編成リストが、

輝夜 リスト受け取り。

輝夜 「ギンガナム、さん……？あんまり聞いたことの無い名ね」

鈴仙 「あれが部下になったらマッチョになって帰ってくる噂の御大将……」

玉兔 「はあ……」

G.M. 玉兔も胃が痛むのか胃薬を飲んでます。

永琳 「ところでさつきから口数少ないようだけど、大丈夫？」

依姫 「……一応大丈夫です。剣は振れます……は

あ。」

永琳 「薬いる？幸福薬たけどあ、手元にないわ」

依姫 「原因の7割がたがあなたたちなのですが……」

……」

鈴仙 「残りの3割はあなたなんです……」

輝夜 「なんだか皆元氣ないわねえ。ほら、あげて行きましょうよ」(ここに)

依姫 「……それ以外の情報はないのか？なんでもいい。」

永琳 「依姫、優曇華。前線での指揮力の評価(低)」

玉兔 「下からの報告がない以上現状保有している情報はありません。記録兵は送っていますのでログを回収できれば……」

ギンガナム 「そのような弱気で戦場を生き延びられると思うか！ そのような弱音など甘ったれた兵隊が言う台詞なんだよ！」

依姫 「分かった。これ以上の犠牲は出せない、支援は被害が出ないように最小限に留め、他の隊員たちがパニックに陥らないように休息をとらせろ。」

玉兔 「了解しました！」

G.M. 依姫の言葉に敬礼で返します。

ギンガナム 「ふむ、それでよい。上に立つ者は毅然とし弱みを見せないものである！」

永琳 「ふうん」入り口らしきものを見てみます

依姫 「あとは……これでも食べて落ち着け。」

依姫 サルサをあげる。

玉兎 「ありがとうございます」

G.M. 受け取ります。

玉兎 「それでは調査、よろしくお願いします」

G.M. 頭を下げます。

永琳 「おっと、そうだ。中の構造ってわかる？何層だとか」

玉兎 「いえ。その情報も上がっていません」

永琳 「戦場の霧が深すぎるわね」

輝夜 「いよいよ入ってみるしかないわけねえ」

依姫 「……ここで待つという選択肢はないのですか？」

ギンガナム：「虎穴に入らねばなにも得られんだろうよ。此度は進むべき時である」

鈴仙 「ナムの地獄に比べれば……そう、たぶんマシンはず……」

輝夜「？ 何言っているの、ここまで来たなら傍観

決め込むのは嘘つてもでしょ。さー、れつっ」

ー！！

依姫 「いや、私が進むのは別にかまわないんだがな

……」

G.M. 玉兎が合図を出すと扉側面の基板にP.Cを直結し、ハッキングしている玉兎が扉を開きます。

入り口向こう側はエレベーターになっているようです。

依姫 「……科学的だな。」

永琳 「ほら、入った入った」

ギンガナム：「ふはははは、それでは行くぞ！」

ギンガナム：「一番乗り。」

鈴仙 「そうだ……完璧にこなせば……」  
「……」

依姫 「……鈴仙。……お互い成果を見せるぞ。」

依姫 顔は暗い。

永琳 「いい方向に考えなさい。悪い方向に考えると

足元掬われるわよ」



依姫 「(あなたたちがいることで数倍悪い方向にしか流れていません、XX様……)」

鈴仙 「は、はいー完璧で幸福な私はこんなところで死ぬエリートではありません……全真無事に警護して任務完了してやりますよ……!」

輝夜 「私たちもそれなりに覚悟してここに来てるのよ。自分の責任は自分でとるわ」

依姫 「(輝夜様……そういわれても実際には責任は私たち二人にのしかかるんですよ……姉上からも……)」

依姫 姉からは(能力的に)逃げられない。

輝夜 そんな心労をしらずにふふふーんと進む( GM 一向が乗り込んだのを確認すると扉がゆっくりに閉まり、鉄の箱が降下を始めます。そういつたところまでOPを終了します。)

## シーン1 場所 宇宙船エレベーターホール

GM 待つこと【2分】。エレベーターが停止し、扉が開きます。責任者が言っていた通り、そこは何かの宇宙船と言うのが正しい内装となっています。なお降りた場所はエレベーターホールとなっていて奥側に扉があります。

依姫 「……長かったな。速度にもよるが、1キロほど降りたか?」

鈴仙 「これはエレベーターじゃないとモドレナイナ」

永琳 「結構長く下へ降りたわね」(笑)

輝夜 「結構大きい船なのねえ」

ギンガナム 「ふうむ、どれだけの大きさか見当もつかん」

GM 一行の後ろでエレベーターが閉まり、扉がロツクされたのか赤い光が灯ります。

鈴仙 「え?」

輝夜 「あつ、これ戻れるの?」

鈴仙 「え、ちよつまっ」

鈴仙 ポチポチポチポチ(ボタン連打)

依姫 「……畏か。」

永琳 「まあ、こうなるわよね」

ギンガナム 「誘い込まれたか……だがよし！ さあ敵の心臓部を喰い破ろうではないか！」

輝夜 「まあそういうこともあるわよね。うんうん」

鈴仙 「う、う、う……動いてよ……え。なにこれ一秒間に16連打とかしないとだめなの？ちよつと……ねえ……フウウウウウウン！！！！！！」ジダンダ！

G M モニターにSystem Rockと表示されています。

管理権限：メインフレームHARVESTASYA。依姫 「どこかにコントロールルームがあるはずだ。

そこを目指そう……」鈴仙ジ。

永琳 「後ろが戻れないなら？はい、優曇華、あなたならどうする？」

鈴仙 「そ、そうですね。物理的に壊れたわけじゃありませんものね……ええ、この程度では私は屈しませんよ？」

依姫 「なら殿は任せた。」

鈴仙 「そう……戻れないのなら前進あるのみ……道は切り開くもの……」竹槍構え。

永琳 「そのとうり。というわけでGood Rak」

ギンガナム 「その意気だ兎よ。さあ行くぞ鉄火場へとなあ！」

G M ではここからエレベーターホールの説明に入ります。この船はエレベーターが二つあり、一つは今ロックされたもの。もう一つは艦内移動用のエレベーターです。

G M 艦内用のものは……動いているんでしょうかねえ？

輝夜 ほうほう。

永琳 艦内移動用の行先わかりますか？

G M 目星してみればいいと思います。

G M ここから技能使用許可します。

永琳 では、目星をば。

G M どぞ。

輝夜「じゃあ目星してみよう。」

G.M. どうぞ。

永琳目星 90 ダイス目目 30 成功

輝夜目星 80 ダイス目目 38 成功

依姫「それだけあればそうなるな」

G.M. 目星結果は次の通りです。

目星【壁に簡易の見取り図が張られています。】

エリア全体像

B1F 艦橋

B2F 居住兼医療区 ↑今ここ

B3F 動力区

B4F 演算区

最下層 核融合炉

永琳「ハハ、なるほどね。」

依姫「さて……どう動くか……」

永琳「さて、どこから行くのかしらね……。動けば」

だけど」

G.M. なお扉の向こうは居住区となっています。

鈴仙「艦内移動用のエレベーターは動くのかな？」  
鈴仙「動きそうか見てみます。技能いります？」

G.M. 知らない。エレベーターは鍵が抜かれ、動きそうにない。

輝夜「なにか先行隊の痕跡とかないかな？」

G.M. 【ここ】のエレベーターホールにはないです。  
輝夜「ふむ。」

ギンガナム「しかし腑に落ちんな。畏ならばエレベーターで攻撃すれば避けようもなく全滅したはずだがそれが無いとは」

輝夜「近場から回ってみる？ 帰る際周囲の安全確保しておいたほうがいいでしょ」

依姫「ひとまずこのフロアからか。ここには必ず来る羽目になる。痕跡も見つかるかもしれないな。」

永琳「進めるところから調べてみましょう」

鈴仙「畏など張る必要もないと……？ふざけやがって……」竹槍ガタガタ！

依姫「考えすぎだ。そういう頭がないだけかもしれないぞ。」

ギンガナム…「それでは用心しつつ進むとするか」

G.M. エレベーターホールからの扉は、居住区画に向かう一つのみ。ダクトも隠られる気の利いたものも何もない。

鈴仙「ひとまず進んでみますか……うらああああらああああああ！」

鈴仙「小声で叫びながら扉に近づくよ。みんなの準備がOKなら開けませう。」

依姫「……アイツの訓練担当に嚴重注意だな。」

輝夜「くすくす。」

輝夜「元気のいい事」(周囲に警戒しながら後ろにつく。

永琳「さてと、どうなることやら」(準備よし)

G.M. では扉が自動で開きます。

### 場所 宇宙船B2F居住区ホール

G.M. ホールは血の臭いが酷く、辺りには何かで胸を貫かれた玉兔が転がっています。血や玉兔だつたものがそこらへんにモノのように散らばっています。

永琳「あらら、これまた酷い状態で……」

G.M. また持ち込んだ機材や武装もほとんどが破壊され使用不可になっています。

輝夜「穢れ……」口元を裾で覆いながら。

鈴仙「うらああああヒイヒイヒイヒイっ!?!」

鈴仙「竹槍特攻から腰を抜かして戻ってきました。」

依姫「……覚悟はしていたが、いざ対面すると……」

永琳「胸を貫かれた玉兔に医学してみます。」

G.M. 先にまずはS.A.N. チェック行きましょうか。

永琳 S.A.N. チェックか。

輝夜「はい。」

ギンガナム「うえいうえい。」

永琳 S.A.N.: 70      ダイス目: 49      成功

鈴仙 S.A.N.: 60      ダイス目: 15      成功

輝夜 S.A.N.: 70      ダイス目: 77      失敗

ギンガナム S.A.N.: 90      ダイス目: 54      成功

輝夜「幸先悪い。」

依姫「振れないぞ……」。

G.M. マジっすか。

依姫 エラーがひどい……。

G.M. いったん入りなおしてどうでしょう？

依姫 それもした……。

輝夜 私の方もエラー発生しました。

G.M. マジかー。

輝夜 とふ自体重みたい。

ギンガナム おれも一回振って出なかったから振り直したら全部出た。

G.M. ちよつと待っていてください。

依姫 S.A.N.: 80      ダイス目: 44      成功

依姫 振れたよ。ついでにセーフ。

G.M. お騒がせしました。では減少ですが、【01】

となります。

G.M. こちらでも減らしておきますが、各自でも管理

お願いします。

輝夜 はい。

鈴仙 狂気に打ち勝った……！

輝夜 「……………」

輝夜 月では慣れない穢れにふらりと眩暈がする。

依姫 で、X.X様の出番。

G.M. では改めて検死どうぞ。

永琳 医学っつと。

永琳 医学: 90      ダイス目: 53      成功

永琳 「何で貫かれたのやら……」

G.M. 医学結果は次の通りになります。

医学 【胸部を細い槍のような何かで（外側から）貫かれてる。直接の死因はショック死のよう

です。】

【また玉兎の死体の破損状況にもばらつきがあり、どうやっても部位が足りない死体もあり

ます。】

輝夜 凶器などは近くに落ちていません？

G.M. それっぽいものは落ちていないですね。破損した銃火器とかならた〜くんあるけど。

輝夜 ふむふむん。

永琳 「細い槍のようなものか……」

鈴仙 「この傷跡……竹槍か……？」 たぶん違っ。

永琳 「あの竹槍と比べて……」（ちらり

G M 当然ながら竹やりより細い。

輝夜 「壁から射出されたーとかはなさそうかしら」

依姫 「お前なあ……重火器に竹槍で攻める奴はいないだろう。」

鈴仙 「え？」

ギンガナム… 「下手人はどこにいるか。すでに去った後だろうか？」

ギンガナム… 目星で出入りできそうな場所を探そう。

G M 目星どうぞ。

永琳 「相手の武器は、槍のように突くこともでき  
て、刀のように切れる武器ってなりそうね。しかも

細い」

依姫 「想像できませんね……」

輝夜 兎たちの死体がどの方向に倒れているかという  
のは分かります？ 攻撃された方向がわかるかも？

ギンガナム目星 60      ダイス目 11

クリティカル

G M 目星結果は次の通りになります。

目星【天井にダクトがあります。また床に酸のよう

な液体で開いた小さな穴がいくつもありま

す。】

ギンガナム…ダクト直下ですか？

G M Yes!

永琳 玉兎の死亡時間たいたいわかります？

G M 割とバラバラですが、一番新しいもので大体1  
日前でしょうか。

輝夜 ふーむ。

永琳 「1日も経っていたら敵がどこにいるかわから  
ないわね」

依姫 「なら近くににいる可能性も……」

依姫 聞き耳立てとくか。

ギンガナム… 「どうやらこのダクトを出入りしたよう  
だな。酸液を常時撒き散らしていないのなら兎の  
反撃により酸液を撒くことになったか」

G M 聞き耳どうぞ。

依姫聞き耳 85      ダイス目 89      失敗

依姫 あれー？

G.M. あらー？

永琳 聞き耳援護！

輝夜 あとだし聞き耳！

G.M. 聞き耳OKです。

輝夜聞き耳！ 75    ダイス目 46    成功

永琳聞き耳！ 90    ダイス目 13    クリティカル

G.M. 聞き耳結果は次の通りになります。

聞き耳 【ホールの隅に置かれていたロッカーから何

かが動いたような、小さな音が聞こえてき

ます。】

依姫 「外からは聞こえないか……」

輝夜 「……永琳、聞こえた？」

永琳 「おや？」

永琳 「ええ、聞こえました」

ギンガナム 「む、何かいたか？」

輝夜 「そこから今変な音がしたわ」ロッカー指差し。

永琳 「ロッカーにノックしてみましょう」（コンコ

ン

依姫 「外かと思えば中か……ってXX様！？」

鈴仙 「え？な、なに、くそっ！隠れているのか……いるのはわかっているのよお……！」

G.M. ロッカーの中から小さな悲鳴が聞こえてきました。少なくとも言語を話すことができる何かが入っているようです。

ギンガナム 「勇敢なる月の戦士ならば出てくるがよい。小生はギム・ギンガナムである！」

依姫 「大声出すな。」

依姫 軽く殴る。

ギンガナム 「何をする。痛いではないか」

依姫 「場所も敵も数も不明の敵の真ん中で大声を出す奴があるか……」

ギンガナム 「それもそうであったな。うむ、謝ろう」

永琳 「なるほど、把握した」

永琳 扉御開帳！

永琳 「生き残りっぽい」

鈴仙 「え？生き残り？今たぶん死にましたよね？

ね？」

G.M. ロッカーの扉を開くと中から手負いの玉兔が崩れ落ちてきます。まだ生きているのが不思議な位の傷を負い、もうあまり長くはもちそうにないことが見て取れます。

玉兔 「たすかった……はやくにげ……げほっ」

G.M. 玉兔は口からどす黒い血を吐き出します。

輝夜 「まあまあ。貴方、大丈夫……そうではないわね」

輝夜 玉兔に声をかける。

永琳 「大丈夫？じゃないわね、これ」

鈴仙 「ひい……ちよ、ちよっと、何があつたの!？」

玉兔 「げけものが……」

G.M. 玉兔の装備を見る限り記録を取るために同行していたのでしょう。攻撃用の装備はほとんどなく、

記録用の機器を持っています。

永琳 一応医学で手当してみたいです。

G.M. 手当ていいですよ。

輝夜 「手当てとか、私は初歩しか出来ないけれど……」

輝夜 とりあえず応急手当したくあるのですが、とつてなかつたことに気づいたのでハンカチか何かを傷に当てておく。

永琳医学 90      ダイス目 21      成功

G.M. 玉兔のHPが1D3回復します。

玉兔回復 1D3      ダイス目 2      残HP: 5

G.M. 適切な手当により傷の手当てを行います、いかんせん重症すぎるようです。

永琳 「こんなもので大丈夫とは思わないけど……」

ギンガナム 「重傷すぎるな、情報収集は医師である貴公に任せるぞ、八意よ」

ギンガナム 「聞き耳しながら居る体制で警戒できません？」

G.M. 許可します。

ギンガナム聞き耳 60      ダイス目 37      成功

G.M. 聞き耳結果は次の通りになります。

聞き耳 【特に気になる音は聞こえてこない】



G.M. さて、ここで輝夜さんはこの兎が忍び込んできた奴だと気が付いている。

輝夜 ほう。

輝夜 「あら、あなた……前に私の屋敷にきた？」

玉兎 「あ……？おひめ……さま？」

G.M. 気が付いたようです。

輝夜 「こんなところでまた出会うのも縁ね。……も

つとも、あまり良い状況とはいえないけど」

玉兎 「わたし……まだしにたくない……」

輝夜 G.M.質問なんですが、

G.M. 为什么呢？

輝夜 輝夜の能力、永遠と須臾を操る能力で傷口の時

間を止めることってできませんか？

G.M. 認めましょう。演出上になりますが、若干玉兎

の容体を回復させますよ。

輝夜 よかった。

輝夜 「ええ、大丈夫。貴方は死なないわ」

輝夜 兎の傷口に手をかざし、能力を使用する。

依姫 「鈴仙も集中して警護しろ。」

依姫 自分も抜刀の構えのまま警戒する。

鈴仙 「く、来るなら来い……いや来るな……私はた

だ普通に暮らしたいだけなんだ……フーっ！」

鈴仙 竹槍構え。

永琳 「辛いと思うけど、何があったのか順に話して

ちょうだい」

永琳 「おっと、惨劇の場面は飛ばして結構よ」

玉兎 「ありがとうございます……ごさいます。ばけものが……」

……」

G.M. 輝夜の能力によって受けた傷が少し楽になった

ようです。

玉兎 「くろくて攻撃がまるできかない……」

永琳 「黒い、攻撃が効かない……、さらに自由に天

井でも動けると」

輝夜 「幽霊や神霊のようなものかしら」

玉兎 「あの……これ……きろくを……とつたんで

す」

G.M. 記録用の端末を差し出します。

輝夜 「……見せてもらおうわね」受け取るう

G.M. 録画機能は逝っているようですが再生くらいはできそう。

依姫：「……情報は欲しいところです。お願いします。」

### 【玉兔のログ

1日目 17:20:30

静かの海の調査は順調。

今のところおかしなものは見当たらない。

18:00:32

何かの入り口を発見。

信号は入り口内部から発しているようだった。

入り口付近にベースキャンプを作り内部の調査のために部隊を派遣した。

私は一旦本部に連絡をつけることにした。

2日目 12:52:22

内部からの定時連絡が一向に無い。

本部に増員の要請と私たちも入り口をくぐってみることにした。

内部はエレベーターになっているようで、システムエラーが起きていた。

ハッキングでエレベーターを起動させると下に向かって動き出した。この下には何があるのだろうか？

13:00:00

内部は何かの宇宙船と呼ぶのが良いだろう。隊長も同意見みたいだし。

主要な器械や備品は経年劣化でほとんど機能していないようだ。先に降りた仲間たちはどこに行ったのだろうか？

15:21:55

負傷した仲間を発見した。

かろうじて息はあったが、もう助からないだろう。欠損は腕、足、右半身と酷くまるで何かに食り食われたようだった。

ひとまず地上に戻るためエレベーターまで戻ったが、エレベーターが動かないのだ。

エンジンアが残り、起動できないか試してみることになった。その間私たちはまた調査を行うことに。

こんな奇妙なところからはさつさと引き上げたい。

16:08:59

天井を何かが轟くような音が聞こえてきた。

そう思ったら、部隊の通信係が天井に開いたダクトに引き込まれたのだ。ダクト内からは悲鳴と何かを食うような嫌な音が聞こえてきた。

私にも隊長にもすぐに理解できた。仲間がいないのは上にいる何かに殺されたからだ。

私たちはその場を後にした。

16:30:00

調査を切り上げエレベーターホールに戻ったが、そこには誰もいなかった。おそらくは……。

増員が来るのは早くとも明日以降になるだろう。それまで私たちは、何かから逃げなければならぬ。

18:22:22

先ほど化物の襲撃を受け、部隊の大半が殺されてしまった。やつは黒い化物だった。やつは銃弾を受けてもまるで意に介さずに私たちを引き裂いた。

槍のようにとがった尾は簡単に仲間の体を貫いていた。

火炎放射器を当てたら逃げだしたので事なきを得ることができた。しかし、必要になるとは思わなかったから補充用の燃料は上に置いてきてしまった。

上と連絡も取れず、弾薬も無い。何とか明日まで絶えないと。

20:30:10

再び化け物の襲撃を受けた。どうも音に敏感なようだ。ここからはできるだけ大きな音を出さなようにしないと。

隊長……私がふがいないばかりに……。

3日目 08:59:34

ようやく救援の部隊がやってきた。

これで上に戻る。

絶対に死ぬもんか……諦めるもんか……。】

永琳 「なるほど。重要な考察ね」

輝夜 「火炎放射器に怯んだと」（ふむふむ）

永琳 「ということで。そのギンなんとかやら。暫く静かにするように」

依姫 「ですが、我々の武装に火炎放射器はありません……」

玉兔 「ロッカーに……私が使っていたのが」

玉兔 「ただ……」

輝夜 「燃料がないのね？」

永琳 「燃料がないと」

玉兔 「はい。あと機能不全を起こして」

鈴仙 「た、松明ならありますが……うぬ……」

永琳 「修理も必要」

ギンガナム 「ほぼ半壊ということか」

輝夜 「機械修理の得意な者（この中にいた）？」

鈴仙 「なら直せば使えそうですね！」

依姫 「……修理できるのか？」

鈴仙 「ええ、これでも月のエリート工兵ですからね。」

依姫 「自分で言っていたら世話ないぞ……」

鈴仙 「で、では早速ロッカーを拝見しましょう」

鈴仙「普通に見つかるのかな？」

ギンガナム「ならば、貴公が持っているといよ。吾輩も心得はあるがこちらの方が得意なのでな」

ギンガナム「刀を出そう。」

依姫「せいせい足止めくらいか……くそっ」

G M ロッカー内には火炎放射器が立てかけられています。破損しているようですが、修理自体はできません。少量の燃料が残っているようだ。

#### 【火炎放射器

威力 2 D 6 + 6 装弾数 2 ~ 6 攻撃回数 F A

耐久 0 射程 1 5 m 技能特殊火器

記述 小型のボトルが装填された火炎放射器。科学薬品を混ぜた強力な燃焼性能が売り。現在破損中で使用できそうにない。】

G M 火炎放射器のデータはこんな感じになります。

永琳 「んー」

永琳 部屋内に燃えそうなものありますか？布があればよいのですが。

G M 玉兎からはぎとればいいとおもいます。

輝夜 玉兎い。

依姫 玉兎（ぎよくと） 行ってなんだから。

永琳 やっぱりなー。

G M もう玉兎じゃない。

永琳 「玉兎達には悪いけど服を使わせていただきますよ」(ズレ、)

G M 布を 1 D 1 0 入手していいですよ。

永琳 はい。

布入手 1 D 1 0 ダイス目 5

永琳 5枚か。

【布 玉兎だったものから剥ぎ取った 個数 5】

永琳 入手した布の 4 枚を使って 4 本の矢に巻き付けおきます。

G M 布矢 4 つ了解しました。

永琳 即席の火矢。ただし本来の火矢より劣るだろう。

永琳 「とりあえずこんなもので」ヤ、ヒ、布を撒く。

鈴仙 「では早速修理からしましょう。あ、ダクトからは離れますね（震え声）」



## あとがき

初めましての方は初めまして。どこかで私を知っている方はお久しぶりです。ユウというものです。昔の私を知っている方がいる場合、長つたらしいHNではなく結局このHNに落ち着きました。(ここまで天ぷら)

オンリーへの参加や、コピー本作成は初の試みでしたがなんとか形にすることができました。今後もやるかは未定です。ご意見、ご感想をぜひともお待ちしております。

PLの方々、この本を手を取っていただいた皆様、当日売り子をしてくれる方、イラスト提供の双方に感謝の意をささげます。圧倒的な感謝!!一人では間違いない、ここまで来ることはできませんでした。たぶんどっかで (ry

それでは長々とお付き合いいただきありがとうございます。また機会がありましたらお会いしましょう。

奥付

『東方COC 月面の夢プレビュー版』

2017年3月26日初版発行

発行 水天の涙 著者 ユウ

参加者 (敬称略) ..

## 月面の夢

哀架、亜尾、ウチドン、島鳥 sion

イラスト提供: 亜尾様

扉絵 .. 彼岸風様

原作 上海アリス幻楽団 ZUN様

印刷・製本: ユウ

ご意見、ご感想は、こちらまで

アドレス: recreet0098ca@gmail.com

Twitter: @UnyuFRONTAL

